

安芸高田神楽 時間 14:00~14:45

安芸高田はいまお22の神楽団が舞う神楽の聖地。華麗で色鮮やかな演出と圧倒的な演劇性、そして見る者を魅了するスピードで人気の「新舞」をお楽しみください。



©一般社団法人 安芸高田市観光協会

大学の研究力紹介

関西大学理工系分野の研究発表ポスター展示に加え、本学が発見に貢献した「高松塚古墳壁画」のレプリカ・VRや、「平家物語」デジタル高精細画像などをご覧ください。



「トップフィギュアスケーター&五輪の哲人・大島謙吉」展

高橋大輔さんや宮原知子さんなど、関西大学が誇るトップスケーターのコスチュームや貴重なメダル類とともに、ロス五輪(1932年)の三段跳びで銅メダリストとなり、先の東京五輪(1964年)で選手団長を務めた大島謙吉氏の五輪ジャケットほかを展示いたします。



高橋 大輔さん



宮原 知子さん
(撮影・川崎 恵莉子氏)

関大グッズ販売コーナー

関西大学のオリジナルグッズをご用意しています。この機会にぜひ、お求めください。



講演会② 時間 14:30~15:15



テーマ
受験に役立つ心理学

内容
勉強のモチベーションはどのように高めて維持するのか、偏差値とは何かなど、受験勉強に関連する事柄について、心理学の観点から解説します。

講師
脇田 貴文教授
(関西大学入試センター副所長/社会学部教授)

入試相談コーナー

入試個別相談会 時間 12:00~16:30
入試説明会 ①時間 13:00~13:30
②時間 15:30~16:00

本学の学部入試、大学院の入試制度はもちろん、カリキュラム内容や学生生活など、本学の魅力をわかりやすくお伝えします。ご来場をお待ちしております(ご来場者には、入試グッズを進呈)。



第2部 大交流会(立食パーティ) 対象 校友・ご家族、在学生のご父母 時間 16:00~18:30 会費 ¥7,000

集まれ! 関大人!

事前にお申し込みください

第1部終了後、校友・ご家族及び在学生のご父母の皆さまには引き続き、ぜひともご参加ください。学長・理事長も出席いたします。関西大学関係者同士、大いに「学縁」を深めましょう。

※クロークがありませんのでご注意ください



お問い合わせ 関西大学校友会事務局 電話 06-6368-0046~8 FAX 06-6380-8476

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学 校友・父母会館内

ホームページ・Facebookは [関西大学校友会](#) 検索

共催：関西大学、関西大学校友会、関西大学教育後援会
主管：関西大学フェスティバルin中国実行委員会
(広島支部、岡山支部、備後支部、山口千里会、鳥取支部、島根支部)

関西大学 フェスティバル in 中国

2019 **9/29** 日 12:00~18:30
広島コンベンションホール 広島テレビビル内



新幹線口(北口) ペDESTリアンデッキから直通!
住所：広島県広島市東区二葉の里 3丁目5番4号 広テレビビル
TEL:082-567-2300
※会場敷地内に駐車場はございません。公共の交通機関をご利用ください。

第1部 イベント(入場無料) 対象 受験生を含む一般の方、校友・ご家族、在学生のご父母

■2Fメインホール 12:00~12:30 オープニング 12:40~13:30 講演会① 「水族館の文化史」	■1F エントランスホール 12:00~16:30 ・大学の研究力紹介 ・「トップフィギュアスケーター&五輪の哲人・大島謙吉」展 ・関大グッズ販売コーナー 14:00~14:45 安芸高田神楽	■3F ホール 12:00~16:30 入試個別相談会 13:00~13:30 入試説明会 14:30~15:15 講演会② 「受験に役立つ心理学」 15:30~16:00 入試説明会
---	---	--

講演会① 時間 12:40~13:30

テーマ 水族館の文化史—展示された「海」の物語



講師 溝井 裕一教授
(文学部教授)

水族館の世界へようこそ。水族館は、19世紀ヨーロッパに誕生し、その後アメリカや日本でもユニークな発展を遂げました。この施設にまつわるさまざまなトピックのなかで、今回は「没入型展示」のお話をしようと思います。「没入型展示」とは、本物の海に「没入」したような感覚をもたらす展示のことです。水族館はもともと、日常において観察するのが難しい水生生物を展示する場です。しかし来館する人びとは、ただ生き物を見るだけでなく、彼らの暮らしている世界も楽しみたいと願うようになりまし。そこで水族館デザイナーは、リアルな「海」を人工的に再現すべく、奮闘してきたのです。たとえば19世紀には、本物の石やセメントを使って、海底洞窟を模した空間

間をつくりました。20世紀には、アクリルパネルや動物との「ふれあい」をつうじて、没入感を増やすことが試みられています。そうしてつくられた「海」は、ある意味で本物より本物らしい、特別な空間です。さらに、私たちがもつ海のイメージが変われば、展示の内容もまた変化します。そんな水族館をめぐる旅へ、たくさんの図像とともにご案内いたします。

著書『水族館の文化史—ひと・動物・モノがおりなす魔術的世界』が「2018 サントリー学芸賞」を受賞
https://www.suntory.co.jp/sfnd/prize_ssah/detail/201806.html

